水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

魚類養殖の次世代スターの育成に奮闘中！！～スジアラを真の”アカジン”にするために～

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武部, 孝行 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008550

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

ー　魚類養殖の次世代スターの育成に奮闘中！！

～ スジアラを真の“アカジン”にするために ～　ー

亜熱帯研究センター　生産技術グループ　**武部 孝行**

スジアラは南西諸島からオーストラリアおよびインド洋に生息するハタ科魚類の仲間であり，世界的に重要な沿岸漁業資源の一つです。そのため，沖縄県や鹿児島県南西諸島では，放流用あるいは養殖用対象種として期待が大きい魚です。また，沖縄県では「アカジン」と呼ばれ県の三大高級魚のトップに位置づけられています。スジアラが「アカジン」と呼ばれるのには二つの説があり，一つは沖縄の方言で着物を意味する「チン」が変形して「ジン」となり「赤い衣を纏った魚」という説と，もう一つは「ジン」は沖縄の方言でお金を意味することから「赤い銭になる魚」という説があります（写真1）。

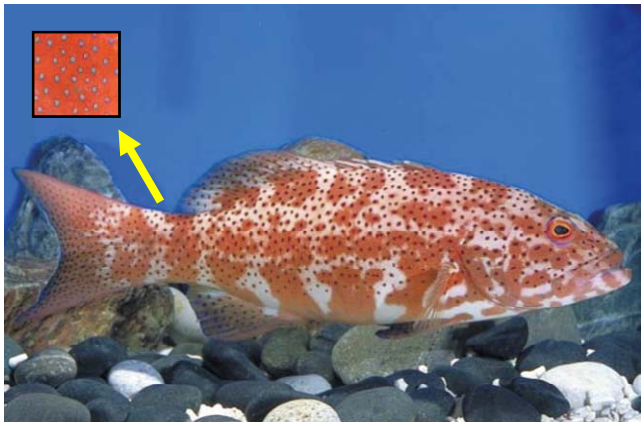

写真1　体色の赤が鮮やかなスジアラ
（写真中：赤の体色に映えるコバルトブルーに輝く斑点）

また，中国では「東星：トンシン」と呼ばれ，その綺麗な赤の体色とコバルトブルーに光る斑点が人々を魅了し，高級食材として取引されています。日本でいうところの“マダイ”と同じ，お祝いの席には欠かせない人気の高級魚です。特に500～800gのいわゆるプレートサイズが最も単価が高く，いわゆる浜値で6千円以上，末端価格として高級レストランで1キロあたり2万円以上します。そのため，中国はもとより東南アジア諸国およびオセアニアで養殖対象種として盛んに研究されています。

西海区水産研究所亜熱帯研究センター八重山庁舎（旧日本栽培漁業協会八重山事業場）では，昭和60年から亜熱帯海域の重要な漁業資源としてスジアラを取り上げ，親魚養成および種苗生産の技術開発を進めてきました。そして，飼育水の流動調整によって仔魚が水槽底に沈む現象を防止する対策を考案し，10万尾レベルの種苗生産技術の開発に成功しました※（現在，特許出願中　特開2011-172505）。この技術は，他のハタ科魚類（クエやキジハタなど）にも応用され，着実に成果をあげています。しかし，全長7mm前後で発生する大量死亡（中期減耗）や形態異常が問題となっています。中期減耗は，ハタ科魚類の仔魚に共通する問題で，伸長する背鰭と腹鰭の棘（写真2）で，互いが互いに傷付け合うことにより発生すると推察されています。そこで，まず実態を把握するために，仔魚の収容密度を変えて発生状況を調査する予定です。形態異常については，遺伝的影響，飼育手法，餌の物性および給餌方法など，様々な要因が考えられることから，水研センター内の専門家の協力を得て様々な試験を行い，これらの要因と形態異常との因果関係を明らかにする予定です。

優れたスジアラ種苗を安定的かつ大量に生産できるレベルまで高めることが可能となれば，南西諸島海域における養殖起業の一助になるものと考えています。養殖界の次世代スタースジアラを真のアカジン（赤い銭になる魚）にするため，日々奮闘中です。

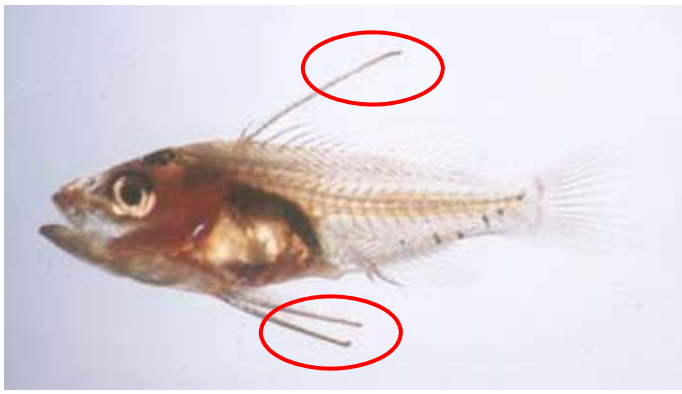

写真2　長く伸びた背鰭と腹鰭の棘（全長10mm）

※ 水産技術 第3巻 第2号：「スジアラ仔魚の沈降死とその防除方法を取り入れた種苗量産試験」
http://www.fra.affrc.go.jp/bulletin/fish_tech/3-2/04.pdf